

令和7年度
港南区連合町内会長連絡協議会・港南区協働による地域づくり推進協議会
合同意見交換会 開催報告

日 時	令和7年12月19日（金）15時00分～17時00分まで
場 所	港南区役所6階 601・602会議室
出席者	<p>【区連会】 荻久保（源）会長（上大岡）、横川会長（大久保最戸）、田代会長（日野）、小後摩会長（日野第一）、川島会長（港南台）、高橋会長（永野）、黒田会長（野庭団地）、黒川会長（野庭住宅）、古屋会長（下永谷）、若林会長（永谷）、飯島会長（芹が谷）、宮島会長（ひざり）、上田会長（日野南）</p> <p>【協議会】 利根川会長（地区社協分科会）、柿沼会長（民児協）、石川会長（保活）、小室会長（スポ推）、穂永会長（青指）、富山代表（消費）、岩崎会長（環境）、武馬会長（シルバー）、小松会長（ヘルスメイト）、佐藤副会長（保護司会） 栗原区長</p>

【協働による地域づくり推進協議会（協議会）の概要】

区内の地域活動者や団体が、自治会町内会など身近な地域の中で連携できる関係を築き、地域での活動をより一層進めていくために、区内で活動する各団体の代表者と区役所が一緒に話し合い、情報を交換する場として、平成26年度から設置しています。

令和5年度より、区連会と合同で意見交換会を開催しています。

◆ 開会あいさつ 古屋会長（港南区連合町内会長連絡協議会会長・港南区協働による地域づくり推進協議会会長）



今年度も昨年度に引き続き、防災をテーマにさせていただきました。今回の意見交換会のテーマは「災害時の地域での連携を考える」です。大きな災害が起こった際には、地域で力を合わせて対応していく必要があるとともに、港南区では、昨年、「こうなん災害時協働隊」の取組が始まり、企業のみなさんを巻き込んだ連携が進んでいるところです。そうした取組の内容も共有しながら、意見交換ができればと思います。

◆ 意見交換

「災害時の地域での連携を考える」をテーマに意見交換を行いました。

意見交換にあたって、(1)港南区食生活等改善推進員（ヘルスマイト）による「いざ」という時の「食」の啓発、(2)地域防災拠点と協働隊の連携について～平時における取組「協働隊の訓練参加」～の報告をいただきました。また、日野清風苑町内会で実施したペットについてのアンケート結果について、情報提供がありました。その後、4グループに分かれて、講演を聞いての感想や、発災時に備えて地域でできること等について、意見交換しました。

【参考 URL】

○港南区食生活等改善推進員会（ヘルスマイト）について

https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/kenko-iryu-fukushi/kenko_iryu/kenkozukuri/helsumeito.html

○港南区災害時協働隊について

https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/bosai_bohan/saigai/kyoudoutai.html

主な意見 ※事務局で類似のご意見を整理して、まとめて記載しています。

■こんな災害時協働隊について

- これだけの数の協働隊が訓練に参加してくれ、顔つなぎができたのは良かった。地域と協働隊が関係性を築く良いきっかけになったのではないかな。
- 協働隊の参加がなかった拠点でも、協働隊の名簿があれば、何かの時に相談しやすい。
- 協働隊は、重機（クンボ、フォークリフト等）を所有している事業所も多く、様々な場面で協力してもらえることがあるのではないかな。
- 協働隊と地域が直接つながることが重要。地区毎で、ざっくばらんに意見交換できる交流の場があってもよいのではないかな。その後もお祭り等に来てもらい、直接顔のつながる関係性を築いていきたい。
- 夏祭りにキッチンカーを出してくれる建設会社があって、お声がけをし、つながりが出来て、協働隊に入ってくれた。

■地域での連携を進める

- 防災拠点に避難すればよいと思っている人が多いが、そんなに多くの人々が避難することはできない。在宅避難を基本とし、隣近所で安否確認・支え合う仕組みづくりが重要。
- 実際に災害で集まったときは、全く顔の知らない人だと気まずい。祭り、運動会等の行事が改めて大事。顔の見える関係性が作られる。声かけが結局、大事。

- ラジオ体操やLINEでの連絡など、日頃の取組が安否確認につながる。
- ヘルスメイトの「いざ食」に興味をもっている人が増えている。できる人を増やすことが大切だと考えているので、依頼があれば自治会等に出向いて講座を開催したいと考えている。
- 青少年指導員の立場からは、避難してきた子どもたちがどう過ごすか、ということも考える必要があると思う。
- 防災拠点は資材・情報・食料の機能を持つが、住民の情報は持っていないので、在宅避難者の状況把握は自治会が担うべきではないか。
- 自治会と拠点の役割の違いを理解し、平常時から情報共有を進める必要がある。
- 地域にどんな人材がいるかを知っておくことが大事。
- 要支援者について話し合っているが、結局はみんなの地域力。顔の見える関係性が大事。災害はいつ起きるかわからないので、代表がいなくてもみんなに対応できるようにしなければいけない。

■ ペット防災について

- ペットのアンケートを見て、こんなにペットを飼っている人が多いことに驚いた。
- アンケートを通じて、ペットを避難所へ連れていけないことを認識してもらっただけでも意義は大きい。
- ペットを飼っている人は多いが、防災拠点でのルールが知られていない。

■ 各地区での取組紹介

- 永谷、芹が谷地区で防災6拠点連絡会が開催され、いろいろな意見を聞いた。
- 防災拠点訓練に中学生が参加し、高齢者の手助けしてくれたりした。
- 小さい時からやることが大切。野庭住宅では、ジュニアクラブを作り、子ども達の活動を支援している。
- 自治会の未加入者への対応はどうしたらよいか課題なので、加入者・未加入者に災害時におけるアンケートを取った。未加入者でも防災の登録が必要だと感じている。

◆ まとめ 栗原区長



今日お集まりいただいた委員の皆様は、災害発生時にリーダーになる方々です。協働隊は令和6年12月に発足し、1年間で170社もの事業所に登録していただきました。今は数を増やしている段階ですが、今後はいざという時に向けた分析も行いながら、地域と事業所との連携づくりを、地域の皆様とともに育んでいきたいと思っています。

当日の様子

